

しんあい

季刊

2022年(令和4年)3月20日発行 第121号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武藏台1-10
TEL 042-367-8801
多摩同胞会のホームページでは、
ブログを毎日更新しています。
<https://www.tama-dhk.or.jp/>
をぜひご覧下さい！



2021年12月21日 永年勤続表彰式をオンラインで開催しました。

泉苑

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
- ・府中市地域包括支援センター 泉苑

緑苑

- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑
- ・府中市地域包括支援センター 緑苑

あさひ苑

- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
- ・府中市地域包括支援センター あさひ苑
- ・府中市高齢者住宅 うらら多磨

神田事業所

- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・かんだ連雀高齢者 在宅サービスセンター
- ・高齢者あんしんセンター 神田
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- ・千代田区立かがやきプラザ 相談センター

児童福祉

- ・母子生活支援施設網代ホームきずな
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・子ども家庭支援センター しらとり
- ・府中市子ども家庭支援センター たっち

◆ 社会福祉法人を考える12

◆ 第1回実践報告会を開催しました

◆ 施設だより 「新たな思いを胸に」



社会福祉法人 ～新型コロナウイルス感染症と

新型コロナウイルスの変異株オミクロンが猛威をふるって、過去最多の陽性者数を連日更新しています。そして第6波と呼ばれる今回は子どもたちから大人、高齢者と拡がっているようです。発生当初の2020年は休校や活動自粛はありましたが、子どもたちの感染は多くなく、当法人の母子生活支援施設（すくなしらど）も高齢福祉施設を中心にした対策会議に引きずられるように参加していました。

結果として、児童施設としては早い時期から、換気や除菌はもとより発生時のゾーン区画、動線分離、防護服対応など実践的な対策に取り組んでいました。その中で、日々の活動や行事を工夫しながら子どもたちと向き合いました。

2020年度後半期から2021年度のPCR検査の対応など、自治体の違いが顕著で、とまどうことも多くありました

拠点	母子生活支援施設 納代ホームきずな	母子生活支援施設 白鳥寮／子ども家庭支援センター しらとり	府中市子ども家庭支援センター たっち
2月 10日 3年 月	・3～5月 学校臨時休校期間にも恵まれた周辺自然環境を生かし、施設内学童保育を実施した。(お母さんが安心して仕事に出る、子どもを孤立させない、そして親子がともに心身の疲弊を予防することを目的に)	・3月 近隣中高生対象の地域公益活動 オープニングルーム等行事活動休止 ・3月 学校臨時休校期間中の緊急対応事業所内学童保育実施し、延42名の児童を受入	・3月 「親子ひろば」活動休止。制作キットを来館者に配布 ・「リフレッシュ保育」「ファミリー・サポート・センター」は通常通り実施
2月 20日 2020年 2月 1年 3月	・4～6月 中高生を含む学童に給食として昼食を計15回提供。 ・日帰り旅行や納涼祭、学童キャンプ等年間行事は中止。 10月より原則毎月1回全利用者に夕食(お弁当)を提供。 ・クリスマス会は会食形式ではなく、サンタクロースとトナカイに扮装した職員が 感染防止に努めたうえで、各居室を訪室し、ケーキとプレゼントを全利用者に贈った。 ・中高生を含む学童に4～6月に週1回 昼食を計15回提供。	・4～5月 学校臨時休校期間中の法人実施延43名が利用。 ・7月～ 地域公益活動「学習サポート」 ・7月～ オープンルーム等は2部制を ・親子レク(一泊旅行)、泉苑合同ハロ ・お楽しみ会の代わりに、職員が全居室 X'masイベントを実施。 ・母の日リフレッシュ保育はランチとお むさこいまつりは中止。ランチを提供。	・7月～ ひろば事業を事前予約制、二部制等により再開。 「スポットタイム」「ひろばでタッチ」等の企画は休止。
2月 4月 1年 9月	・4月～ 行事実施は見送り、毎月1回全利用者に夕食のお弁当を提供。 ・8月 希望する世帯にガイドラインによる感染防止策を実施しているテーマパークのチケットを提供。世帯ごとに職員による送迎を実施した。 ・9月 自治体合図「敬老のお祝い」に施設内学童が手づくりプレゼントとメッセージカードを作成。社会役員を通じて渡して頂いた。	・5～6月 地域公益活動「学習サポー ・5月 母の日リフレッシュ保育は中止。 ・7月 泉苑合同「むさこいまつり」 人世両界及び市内退所世帯に白鳥寮オ ・9月 泉苑合同「敬老のお祝い」は入所	・緊急事態宣言中は「リフレッシュ保育」の預り時間を短縮。
コロナ禍の事業、 お母さんと子どもたち	<p>【施設内感染予防及び発生時の備え】きずなには常時40～50人の子が生活しています。施設内感染予防と陽性者判明時に備えて次の取組を行いました。</p> <p>①外出を避けられないお母さんたちのために、随時、新型コロナウイルス感染症に関する適切な情報を収集し、発信、共有に努めました。</p> <p>②建物の入口に非接触型の検温計と手指消毒剤を設置し、定時に居室の換気を放送で呼びかけました。希望者は、空気清浄機を貸しました。</p> <p>③定時の施設内共用部の消毒など、たとえ外部からウイルスが持ち込まれたとしても、施設内で感染が拡大しない環境づくりに取り組みました。</p> <p>④職員は、陽性者が発生した時に備え、離隔区域の設定や非常階段を使用した移動のシミュレーションを行いました。</p> <p>⑤職員は、看護や誘導に当たる際の防護服の正しい着脱等の習得の訓練も行いました。</p> <p>⑥母親が入院等をした場合、濃厚接触者となるその子どもと一定期間対面を共にすることを想定した緊急シフトの取り決めました。</p> <p>なお、近隣保育所で陽性者が判明し、きずなの子どもが濃厚接触者疑いによりPCR検査を受けた際には、自宅待機となった母子への支援として、食料品などの買付け代行や通院送迎等を行いました。幸いなことにいまのところ、ご利用者、職員ともに感染者は出ていませんが、引き続き予防対策の徹底に努めています。</p> <p>【学童保育の継続と昼食の提供】</p> <p>2020年3月から5月末まで続いた学校臨時休校期間中も、きずなは子どもたちの健全な育ちと保護者であるご利用者の就労支援や負担軽減のために、施設内学童の継続に取り組みました。縁がない小さな周辺はひろばや河原に恵まれています。「三密」とならない子どもたちの集団遊びの場を工夫しました。屋内のひろばで鬼ごっこやボール遊びなど心行くまで体を動かしました。中高生は最初は照れ臭でしたが、いつの間にか小学生以上に外遊びに熱中し、呼びかけなくて時間がになると顔を出すようになりました。時には法人の大型車両を借りて、遊具のある公園などに遠征し、日が落ちるまでリモートの交流だけでは得ることのできない充実した時間を過ごしました。</p> <p>今思えば手探りで一見無難なところもあったかもしれません、気を付けるべきところは気を付けながら、子どもたちの必要とする日常をまもるために、勇気をもって舵を切ることも大切なことではないかと考えての判断でした。</p> <p>同様の考え方から、休校期間中は給食の代わりにおよそ2ヶ月の間に15日、子どもたちに手づくりの昼食を提供しました。給食という大事な機会を奪われた子どもたちに、せめてみんなと一緒に新しいいい飯を腹いっぱい食べる場を何とか作れないかとボランティアのみなさんや義理親子が連携し献立を立て、感染対策をしっかり行い、提供しました。子どもたちはもちろん、朝早く仕事などに出かけなくてはならないお母さん方にても大変喜ばれました。</p>	<p>2019年冬に国内初感染が確認され、それ以降々々と変化していく状況に応じて必要な引導を見直し実施していくことが【流行り】</p> <p>感染拡大以前は同一敷地内にある泉苑と祭り」「敬老会」「餅つき」などを行い、コロナ禍により中止にせざるを得ませんでした子どものためのiPadを使い動画を作成し、小学生が歌に合わせて手話を披露しました。また各フロアには中学生も参加して作成のみなさんからはお礼のメッセージと当日の写真を撮影しました。</p> <p>【施設内行事】</p> <p>施設内行事も代替となる企画を検討し、期に実施していた「お楽しみ会」はiPadにちなんだ動画を作成し、クリスマスのときに子どもたちのがんばっている姿を【法人内学童保育】</p> <p>緊急事態宣言発出による小学校の休校決まりのニース調査を行ったうえで、2020年ました。昼食は泉苑食事係の協力を得ていつもと違う環境で、いつもと違うメニューになると顔を出すようになりました。時には法人の大型車両を借りて、遊具のある公園などに遠征し、日が落ちるまでリモートの交流だけでは得ることのできない充実した時間を過ごしました。</p> <p>【トライアゴリティス】</p> <p>自主学習にもiPadを活用しました。自分でできることが何かを考え、それぞれトライアゴリティの活動内容にも生かしましプリをインストールし、撮影した写真をる「コマ撮り動画」の制作などにも取り組みました。子ども達は満足感、達成感や自信を得ることもでき、保護者からは子どもがありました。</p> <p>た、家庭で過ごすことが増えた子ども達と、家のがやってみたいことや好きなことを出し合って、た。裁縫や折り紙、ピアノ、さらに、iPadにアニメ編集アプリに取り込んで文字や音楽を入れ組みました。子ども達は満足感、達成感や自信を得ることもでき、保護者からは子どもがありました。</p>	<p>以降2年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大した利用者の生活や施設としての対応やさまざまな引導を見直し実施していくことが【ひろば】</p> <p>の交流行事として「お花見」「むさこい祭り（夏祭り）」で、両施設の交流を深めました。でしたが、「敬老会」では、補助金により導入されました。また各フロアには中学生も参加して作成のみなさんからはお礼のメッセージと当日の写真を撮影しました。</p> <p>可能な限り実施しました。毎年クリスマスの時を使用し、施設内の幼児と小学生でクリスマス食事提供の日にプロジェクトを使い、お母さんみでもらうことができました。</p> <p>定期的に法人職員を対象に小学生の保育についてのニーズ調査を行ったうえで、2020年ました。昼食は泉苑食事係の協力を得ていつもと違う環境で、いつもと違うメニューになると顔を出すようになりました。時には法人の大型車両を借りて、遊具のある公園などに遠征し、日が落ちるまでリモートの交流だけでは得ることのできない充実した時間を過ごしました。</p> <p>た、家庭で過ごすことが増えた子ども達と、家のがやってみたいことや好きなことを出し合って、た。裁縫や折り紙、ピアノ、さらに、iPadにアニメ編集アプリに取り込んで文字や音楽を入れ組みました。子ども達は満足感、達成感や自信を得ることもでき、保護者からは子どもがありました。</p> <p>【ファミリー・サポート・センター（FSC）】</p> <p>依頼会員と提供会員を結びつける役割のFSCは継続して会員のサポート活動を援助しました。感染対策に対する情報提供や相談など細かく対応しました。最初の緊急事態宣言の頃は、休校や買い物の手伝い、在宅ワークの増加などにより依頼が激減して、活動自体が減少しました。会員同士が安心して、感染を予防して活動できるように個別に連絡をしたり、提供会員へのはがきの郵送等情報発信をしました。また提供会員サブリーダー・定例会や講習会、会員交流会、ステップアップ講座も感染状況を見ながら、中止・開催をその都度決めました。サブリーダー・定例会は検討と試行錯誤の結果、2020年度末にはZOOMでの開催にこぎつけることができました。</p>

を考える 12

当法人内のうごき(その4) ~

理事長 鈴木恂子



地域の子育て支援事業は、コロナ禍の当初は休止せざるを得なく、つらい時期を過ごしました。

特にたっちは子育て期のお父さん、お母さん方の交流、情報交換、共有共感の場でもあり、子育て孤立を予防する貴重な役割を果たしていました。事業の休止縮小により、深刻な影響を受けた保護者も多くおられることと推測しています。交流の場の大切さをあらためて痛感したコロナ禍の2年です。

拠点	母子生活支援施設 網代ホームきずな	母子生活支援施設 白鳥寮／子ども家庭支援センター しらとり	府中市子ども家庭支援センター たっち
2 1 0 年 3 月	・3～5月 学校臨時休校期間中も恵まれた周辺自然環境を生かし、施設内学童保育を実施した。(お母さんが安心して仕事に出る、子どもを孤立させない、そして親子がともに心身の疲弊を予防することを目的に)	・3月 近隣中高生対象の地域公益活動「学習サポートサロンSKY」活動休止 ・3月 オープンルーム等行事活動休止 ・3月 学校臨時休校期間中の緊急対応事業所内学童保育実施し、延42名の児童を受入として法人職員の学童対象とする	・3月 「親子ひろば」活動休止。制作キットを来館者に配布 ・「リフレッシュ保育」「ファミリー・サポート・センター」は通常通り実施
2 0 2 0 年 4 月 1 年 3 月	・4～6月 中高生を含む学童に給食として昼食を計15回提供。 ・日帰り旅行や納涼祭、学童キャンプ等年間行事は中止。 10月より原則毎月1回全利用者に夕食(お弁当)を提供。 ・クリスマス会は会食形式ではなく、サンタクロースとトナカイに扮装した職員が 感染防止に努めたうえで、各居室を訪室し、ケーキとプレゼントを全利用者に贈った。 ・中高生を含む学童に4～6月に週1回 昼食を計15回提供。	・4～5月 学校臨時休校期間中の法人実施。延143名が利用。 ・7月～ 地域公益活動「学習サポート」 ・7月～ オープンルーム等は2部制を ・親子レク(一泊旅行)、泉苑合同ハロ ・お楽しみ会の代わりに、職員が全居室 Xmasイベントを実施。 ・母の日リフレッシュ保育はランチとお むさこいまつりは中止。ランチを提供。 花を贈りお祝い。	・7月～ ひろば事業を事前約定、二部制等により再開。 「スポットタイム」「ひろばでタッチ」等 の企画は休止。
2 0 2 1 年 4 月 1 年 9 月	・4月～ 行事実施は見送り、毎月1回全利用者に夕食のお弁当を提供。 ・8月 希望する世帯にガイドラインによる感染防止策を実施しているテーマパークのチケットを提供。世帯ごとに職員による送迎を実施した。 ・9月 自治体合同「敬老のお祝い」に施設内学童が手づくりプレゼントとメッセージカードを作成。社会貢益員を通じて渡していただいた。	・5～6月 地域公益活動「学習サポート」 ・5月 母の日リフレッシュ保育は中止。 ・7月 泉苑合同「むさこいまつり」 入所世帯及び市内退所世帯に白鳥寮オ ・9月 泉苑合同「敬老のお祝い」は入所 学童制作の動画とメッセージボードを泉苑に贈呈。	・緊急事態宣言中は「リフレッシュ保育」の預り時間を短縮。
コロナ禍の事業、お母さんと子どもたち	<p>【施設内感染予防及び発生時の備え】きずなには常時40～50人の子が生活しています。施設内感染予防と陽性者判明時に備えて次の取組を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外出を避けられないお母さんたちのために、随時、新規コロナウイルス感染症に関する適切な情報を収集し、発信、共有に努めました。 ②建物の入口に非接触型の検温計と手指消毒剤を設置し、定時に居室の換気を放送で呼びかけました。希望者は、空気清浄機を貸しました。 ③定時の施設内共用部の消毒など、たとえ外部からウイルスが持ち込まれたとしても、施設内で感染が拡大しない環境づくりに取り組みました。 ④職員は、陽性者が発生した時に備え、離隔区域の設定や非常階段を使用した移動のシミュレーションを行いました。 ⑤職員は、看護や誘導に当たる際の防護服の正しい着脱等の習得の訓練も行いました。 ⑥母親が入院等をした場合、濃厚接触者となるその子どもと一定期間寝食を共にすることを想定した緊急シフトの取り決めました。 なお、近隣保育所で陽性者が判明し、きずなの子どもが濃厚接触者疑いによりPCR検査を受けた際には、自宅待機になった母子への支援として、食料品などの買付け代行や通院送迎等を行いました。幸いなことにいまのところ、ご利用者、職員ともに感染者は出ていませんが、引き続き予防対策の徹底に努めています。 <p>【学童保育の継続と昼食の提供】</p> <p>2020年3月から5月末まで続いた学校臨時休校期間中も、きずなは子どもたちの健全な育ちと保護者であるご利用者の就労支援や介護経済のために、施設内学童の継続に取り組みました。縁がないきずな別れはひろばや河原に忘れています。「三密」とならない子どもたちの集団遊びの場を工夫しました。屋内のひろばで鬼ごっこやボール遊びなど心行くまで体を動かしました。中高生は最初は照れ臭でしたが、いつの間にか小学生以上に外遊びに熱中し、呼びかけなくていつもと違う環境で、いつもと違うメンタルになると顔を出すようになりました。時には法人の大型車両を借りて、遊具のある公園などに遠征し、日が落ちるまでリモートの交流だけでは得ることのできない充実した時間を過ごしました。</p> <p>今思えば手探りで一見無難なところもあったかもしれません、気を付けるべきところは気を付けながら、子どもたちの必要とする日常をまるるために、勇気をもって舵を切ることも大切なことではないかと考えての判断でした。</p> <p>同様の考え方から、休校期間中は給食の代わりにおよそ2カ月の間に15日、子どもたちに手づくり昼食を提供しました。給食という大事な機会を奪われた子どもたちに、せめてみんなで一緒に新しいご飯をお腹いっぱい食べる場を何とか作れないかとボランティアのみなさんや栄養士が連携し献立を立て、感染対策をしっかり行い、提供しました。子どもたちはもちろん、朝早く仕事などに出かけなくてはならないお母さん方にも大変喜ばれました。</p>	<p>2019年冬に国内初感染が確認され、それ大に伴い、刻々と変わっていく状況に応じて行動等を見直し実施していくことが 【交流行り】</p> <p>感染拡大以前は同一敷地内にある泉苑と祭り)」「敬老会」「餅つき」などを行い、コロナ禍により中止にせざるを得ませんでした子どものためのiPadを使い動画を作成し、小学生が歌に合わせて手話を披露し、子た。また各フロアには中学生も参加して作成のみなさんからはお礼のメッセージと当日の写真をいただき、子どもたちも大</p> <p>【施設内行事】</p> <p>施設内行事も代替となる企画を検討し、期に実施していた「お楽しみ会」はiPadにちなんだ動画を作成し、クリスマスのうちに子どもたちのがんばっている姿を</p> <p>【法人内学童保育】</p> <p>緊急事態宣言発出による小学校の休校決意でのニーズ調査を行ったうえ、2020年ました。昼食は泉苑食事係の協力を得ていつもと違う環境で、いつもと違うメンタルになります。</p> <p>【トライアゴステイ】</p> <p>自主学習にもiPadを活用しました。ままでできることが何を考えて、それぞれトライアゴステイの活動内容にも生かしましブリをインストールし、撮影した写真をアドバイスで撮影編集アプリに取り込んで文字や音楽を入れ組みました。子ども達は満足感、達成感や自信を得ることもでき、保護者からは子どもがありました。</p>	<p>以降2年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大した利用者の生活や施設としての対応やさまざまな行事等を見直し実施していくことが 【交流行り】</p> <p>の交流行事として「お花見」「むさこい祭り(夏年間を通して両施設の交流を深めました。でしたが、「敬老会」では、補助金により導入した子どものためのiPadを使い動画を作成し、小学生が歌に合わせて手話を披露し、子た。また各フロアには中学生も参加して作成のみなさんからはお礼のメッセージと当日の写真をいただきました。</p> <p>可能な限り実施しました。毎年クリスマスの時を使用し、施設内の幼児と小学生でクリスマス食事提供の日にプロジェクタを使い、お母さんみでもらいうことができました。</p> <p>定期に伴い、法人職員を対象に小学生の保育についてのニーズ調査を行ったうえ、2020年ました。昼食は泉苑食事係の協力を得ていつもと違う環境で、いつもと違うメンタルになります。</p> <p>た、家庭で過ごすことが増えた子ども達と、家のがやってみたいことや好きなことを出し合って、た。裁縫や折り紙、ピアノ、さらに、iPadにアドバイスで撮影編集アプリに取り込んで文字や音楽を入れ組みました。子ども達は満足感、達成感や自信を得ることもでき、保護者からは子どもがありました。</p> <p>【ファミリー・サポート・センター(FSC)】</p> <p>依頼会員と提供会員を結ぶひりばのFSCは継続して会員のサポート活動を援助しました。感染対策に対する情報提供や相談などきめ細かく対応しました。最初の緊急事態宣言の頃は、休校や買い物の事の休止、在宅ワークの増加などにより依頼が減って、活動自体が減少しました。会員同士が安心して、感染を予防して活動できるように個別に連絡をしたり、提供会員へのはがきの郵送等情報発信をしました。また提供会員サブリーダー定例会や講習会、会員交流会、ステップアップ講座も感染状況を見ながら、中止・開催をその都度決めました。サブリーダー定例会は検討と試行錯誤の結果、2020年度末にはZOOMでの開催にこぎつけることができました。</p>

白鳥寮施設長 近藤政明
しらとりセンター長 畑山恭子

(編集:事務局 青木志乃)

泉苑

新型コロナウィルス感染拡大に伴う対応

報告者 山崎 真人（ホーム相談員）

岩渕 研哉（地域包括支援センター相談員）

泉苑では2021年5月12日から6月3日にかけてホームご利用者10名、職員7名が新型コロナウィルスに感染しました。ちょうど「第四波」で感染者が増大している時でしたので実際の現場の取組を報告することになりました。策定していたBCPが保健所からは求められなかったこと、爆発的な集団感染を免れた感染対策、法人各施設からの応援職員への感謝も伝えました。感染を通して、さらに介護職員の予防意識が高まり、混乱の中でもこの状況を乗りこえたそれぞれの職員のがんばり、それがチーム力の底上げになり自信につながったことを現場目線で報告することができました。



どうすれば気持ちよくお風呂に入ってもらえるか

報告者 木村 隆秀（ホーム主任）

実践報告会の目的の1つには、現場で働く介護職員のモチベーションを上げることが含まれていると思うので、できるだけ他施設でも身近に感じてもらえるテーマを考えた結果「入浴拒否のご利用者に対するアプローチ」を選びました。

声掛けのタイミングを工夫したり、フロア職員と入浴担当が連携を密にしてご利用者が気持ちよく入浴していくまでの課程を報告しました。

実際にアプローチしていた時期は2年ほど前でしたので、報告に向けて記録を取り当時の事を思い出しながら資料を作りました。入浴以外の場面でも対応が難しかった方なので、チーム一丸となってご利用者に寄り添いながら対応していたあと、記録をしみじみと読みました。

報告会の後、ご本人に「発表したよ！」と笑顔で伝えると「良かったじゃない」と笑顔で返して下さいました。今後もこのご利用者の笑顔が絶えないよう支援してまいります。

かんだ連雀

あさひ苑

報告者

宮根 百香合
(ホーム主任)

福井 寛之

(地域包括支援センター長)

初めての「実践報告会」ということで発表するテーマに関してはとても悩みました。「せっかく皆に聞いてもらうのなら、聞いてくれた皆にとっても明日から活かせるような発表にしたい」と考え『利用者の思いを考える』というテーマにしました。

『老婦人からの手紙』（重い認知症で生涯を終えた老婦人の遺品の中から見つかった一編の詩）を読んでから業務に入りましょうというあさひ苑での取り組みです。日頃から業務に追われてご利用者に

第1回 実践報告会

法人内の各施設ではどのような取組により、ご利用者に寄り添い、サービスの質の向上をはかっているのかはなかなか伺い知ることができません。ましてやこのコロナ禍です。そこで、法人企画研修の一環として、『実践報告会』を開催することになりました。高齢5施設の有志が各10分という短い時間ではありますが、自施設の取組を語ってくれました。



介護の働き方改革 ～利用者の思いを考える



寄り添った支援ができなかったり、ご利用者の思いをなかなか考える事ができていませんでしたが、良いきっかけ作りになりました。

また他の施設の報告を興味深く聞くことができ、良い時間となりました。今後もこのような機会があると良いと思います。

開催しました！

本来であれば一同に会しての報告会としたいところではあります、今回は法人各施設をオンラインで結んで11月19日当日は約60名の参加がありました。当日参加できなかった職員も録画視聴ができるようにしました。次回は母子からの参加も期待しています。

（2月9日現在175名が視聴）

コロナ禍でも人と関わりを持ち続けられるように

報告者 木村 優佳（グループホーム介護員）

法人唯一のグループホームであるグループホームいわもとは、入居者の方々が住み慣れた地域と繋ぎを持ち続けられるよう支援をしています。コロナ禍で外出や地域行事への参加が難しいなか、同じ施設内にある認知症対応型デイサービスの利用者の方々と、Zoomを使用して交流を深めた事例を紹介しました。

合同活動（園芸、脳トレ、体操、クリスマスカードの交換など）で活動の幅が広がり、ご利用者の楽しみが増えました。普段は活動に消極的なご利用者も昔なじみの友人に会える合同活動の時は張り切って参加されました。

また、ご利用者だけでなくそれぞれの部署の職員も打合せをする機会が増えて、以前よりも連携がとりやすくなりました。

他施設の様々な事例を聞くことで、自施設にない事業のことを知る良い機会になりました。

岩本町ほほえみプラザ

緑苑

きっかけは何だったのでしょうか

～一つ屋根の下の「大家族」としての生活～

報告者 斎藤 充子（養護老人ホーム生活相談員）

今回、法人初の取り組みとなる実践報告会に参加するお話を頂き、自分なりに歴史のある養護老人ホーム信愛寮のことを、法人の60年史や様々な資料を参考にまとめてみました。

事例として、孤独だった一人の男性ご利用者が、現在は積極的に信愛寮の一員として活躍しておられることが紹介しました。ご利用者の人生が穏やかな方向に向かっていく過程は、拱わっていて本当に嬉しく思います。

ご利用者の言葉や感情が、直接伝わることが養護の特徴ですが、それ故に、本当に人間の大切な温かさや、時として受け止め難い現実も正直に学ぶことが出来ます。今回、養護の持つ力を伝える事ができたのではないかと思います。

また、他の部署の方の報告も聞くことができ、とても勉強になりました。良い機会をありがとうございました。



「仲間」から「家族」に



施設だより

新たな思いを胸に



寒さも和らぎ、春を感じる季節になりました。
一年を振り返り、新たな気持ちで新年度の
準備をする各施設からのメッセージをお届けします。

きずな

新しくお迎えした 雛人形

「明かりをつけましょ、ぱんぱりにくく」と誰もが耳にしたことがある歌ですが、歌詞やその意味を知らない人も多いのではないかでしょうか。保育の子どもたちがひなまつりの歌を歌うと同じフレーズが何度も繰り返されたり、オリジナルの歌詞になっていたりと思わず笑ってしまうことがあります。古くからお祝い事には奇数が良いとされており、雛段は三段、五段、七段が基本形ですが、近年は多種多様、「コンパクトな雛段飾り」の需要が多いよう段飾りを目的とする機会も減りました。さすがでも数年前から飾り台の老朽化や飾る場所の確保が難しく、年々コンパクトに。仕方なさの一方で寂しくも感じていました。

しかし今年は新しい建物での日々も落ち着いてきたので、いたいたいた寄付金で新しく七段飾りを迎えるました。七段飾りには、健康・豊・文武両道・子孫繁栄・美しさなど子どもの幸福を願うすべての気持ちが込められているというので、女の子に限らず、すべての子ども達の健やかな成長と「ロナウイルスの終息を新しく立派な七段飾りでお祈りすることができました。

雛人形に興味津々で入形や道具に触りたくて仕方のない様子の子ども達と共に、昔から大切にされた文化にふれるこどものできる季節の行事を今後も大切にしていきたいと思います。

保育担当（保育士） 山中 有佳



岩本町

会話から得る 大切なこと

新型コロナウイルス感染症の影響で「外出を自粛している」という利用者が仰っていました。そこで、食事で気分転換になるようなものをお出ししたいと考え、リクエストを伺うと、「なんでもいいよ」と言わせてもらいました。ある時、カレーの広告を見ながら「食べに行ったりしますか？」と話していました。「そういうえば最近はシーフードカレーを食べないなあ」という声がありました。その声をきっかけに次々とリクエストが出てきます。「何が食べたいか」と急に聞かれても吐嗟には答えられないと思付き、会話をから好きな食べ物を探る、声の掛け方は大切だと実感しました。

今年度はご利用者の皆さんからのリクエストをたくさん頂きました。「お刺身が食べたい」との声が多くあり、敬老の日にはまぐろとサーモンの手巻寿司の押寿司とお刺身をお出ししました。新年会には鯛や穴子の押寿司とお刺身をお出ししました。新年会には「とても豪華ね」と皆さま喜んでくださいり、私も大変嬉しく思いました。2月のお楽しみ食にはハンバーグやアボリタンなどのランチフレートをお出ししました。毎日笑顔で過ごせる、ご満足いただける食事作りに取り組んでいきます。

食事係（栄養士） 金原 夏実



緑苑

新しい発見

東京農工大学（府中市晴見町）からの依頼で、高齢者の健康福祉を増進させる研究目的でA-I搭載ロボットの「LAVOT（ラボット）」が緑苑にお目見えしています。

LAVOTに声をかけたり、頭をやさしくなでてあげるとその人の顔を認識し、近づいてきて手をバタバタさせ、目をぱちくりして全身でうれしさを表現してくれます。

利用者の皆さん、この仕草に心を奪われ、日を追うごとに心境の変化が見られています。

何事にもあまり興味を示さなかつたAさんは、笑顔で見つめ、少々辛口のBさんは言葉が柔らかく、無口なCさんは「おはよう」と声をかけるようになりました。

二か月経った今、養護のフロアがやさしい雰囲気に包まれています。きっとご自分のお孫さんやペットを思い浮かべているのでしょうか。

LAVOTのお陰で、今まで知らなかつたご利用者の皆さんの一顔を発見でき、とても微笑ましい気持ちになりました。

連雀

ケアマネを 目指して！

私が介護支援専門員（以下、ケアマネ）の資格を取ろうと思ったきっかけは、自分自身のスキルアップだけでなく、利用者にとって必要な援助・介護は何か？また自分には何が出来るのかなど、ご利用者をもっと深く理解したいと考えたからです。数年間不格合が続き、勉強もやる気が起きずになりましたが、自分の年齢も考えると、今年こそは合格したいと強く思いました。そこで勉強をしないといけない状況に追い込まれましたが、通信講座を受講する事を決めました。やらねばならない事がはつきりしていた為、それに沿って勉強を進めました。家で教科書を読んでいると眠くなってしまい、通勤電車の中で集中して教科書を読み続け（たまに乗り過ごしお家では過去問をやり、少しづつ自信をつけ、晴れて合格しました！）

養護支援員

（社会福祉士） 丸山 徹



特養3階リーダー

（介護福祉士・介護支援専門員） 保坂 美加

泉苑

オンライン会議を さらに活用

「ロナ禍の今、対面や集合で行えていた会議・研修・講習等が出来なくなり、それに代わりオンラインで行う事が多くなりました。今では法人内だけではなく、泉苑のなかで行う会議もオンラインです。オンラインを活用することで、医師による講演会の開催を始め、全国の皆様とも職場にいながらの会議等でつながれるようになりました。

機械に弱い私は、どうにかセッティングをし、つながるようになりますが、トラブルが起こることによく対処すればよいか分からず、他の人の力を借りないと復旧できない状況です。もととオンラインでのやり方、機械等も学び、高齢の方々にもオンラインで参加してもらえるように、しっかりと学んでいきたいと思います。

地域包括支援センター相談員

（社会福祉士） 高橋 麻紀





うらら多磨 おかげさまで 10周年

あの東日本大震災のあった2011年の12月1日に、東京都医療介護連携型モデル事業と府中市から市有地の無償貸与を受け、「府中市高齢者住宅つらら多磨」は産声をあげました。13室の小さな住まいは、この10年間に40の方が居住し今まで満室状態です。

2021年12月5日(日)に、ささやかな記念の会を開催しました。開設以来、管理人やコーディネーターとして10年間支えてくださった地域の方々と、多磨会長さんをお招きし、法人からも理事長・福岡理事・坂本理事訪問介護職員が参加して10年間の楽しかった思い出話を花を咲かせました。中でも、コロナ禍前に毎年恒例だった餅つき大会は、必ず再興しようと皆で誓いました。

あさひ苑地域支援統括責任者
(社会福祉士) 清野 哲男



介護職員(介護福祉士) 細尾 一也

日ごとに暖かさを感じられるようになり、早いもので年が明け数か月が経りました。依然、感染症対策は続き、プラスチック製の仕切りがテーブルにあるだけでどこか会話しつらくなり、早く隔たりのない日々が来てほしいと願つばかりです。

ショートステイ滞在中の方々との会話の際も、「最近は外に出る事がめっきり減って体を動かす機会が少なくなった。」という声をよくお聞きします。「いつまでも元気な体で過ごしたい。」という声も聞かれ、できるだけ体を動かす工夫が作れるように、体操をしたり、広い苑内をワーキングしたり、お声掛けしながら一緒に歩いています。皆様が元気に過ごせるよう、一緒に身体を動かす機会をもつと増やしたいと、私の願いがまた一つ増えました。

もっと動いて
もっと元気に！

あさひ苑



かかやき 新たな事業への 取り組み

2015年(平成27年)11月千代田区に高齢者総合サポートセンター(かかやきプラザ)が開設され、相談センターの業務は7年目にに入りました。高齢者の相談拠点として、医療機関や行政だけでなく、社会福祉協議会や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等の関係機関とも連携を取りながら、ケースワーカーを主業務として「まずは話をうながして、ケースワーカーを主業務として『まずは話をうながして受けとめる』ことを念頭に日々相談にあたっています。

2022年(令和4年度より、新たな取り組みとして、生活支援事業を担うことになりました。既存の取り組みを継承しつつも、地域の課題に対する社会資源をどのように創出し、結び付けていくかを相談センターとして工夫しながらチャレンジしていると思います。

事務局本部
(社会福祉士) 齋藤 鉄兵

ウェブサイト リニューアル！

1月7日に法人のウェブサイトをリニューアルしました。

今回のリニューアルではスマートフォンからのアクセスが増えていくことに対応して、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレット端末でも見やすいように改善しました。また、「コロナ禍で施設見学や面会等が制限されている中で施設の様子が分かるように写真を増やしたり、社会福祉法人としての情報発信の充実を図り、以前より見やすく、分かりやすいサイトになっています。

デザインやページ構成の見直し、写真的撮影や選定など公益社団法人広報協会の方と各施設のHPページ担当者が一丸となって公開間際まで取り組んだサイトリニューアルです。是非一度ご覧いただければと思います。

事務局本部
(社会福祉士) 井坪 香織



早いもので一年を振り返る季節になりました。今年度のしらとり保育室は新たに掲示板の活用に力を入れました。保育室入口に子どもたちの日々の様子をポスターにして張り出しています。今年度は速足、ハロウィン、八百屋さんごっこなど行事ごとにボスターを作りました。作成する職員によつてレイアウトや写真へのコメントが違います。

また、迎え時にお母さんたちとボスターを見ながら、その時のお子さんの様子を共有して、一緒に成長を喜べる機会にもなりました。コロナ禍で制限がある中ですが、写真を通して子どもたちの楽しそうな表情や何かに一生懸命取り組んでいる姿などを伝えることができよかったです。これからも継続して、思い出をたくさん増やしていくたいと思います。

保育担当(保育士) 菅沼 由香



掲示板が思い出のアルバムに！

しらとり

早いもので一年を振り返る季節になりました。今年度は、えほんの読み聞かせや製作物のお手伝い、子ども達の見守りをしてくださるボランティアの皆さんに、常に力を借りていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の猛威により、ボランティア活動をしていたことが難しい状況になってしまい、2020年度はボランティアの方を対象とした講座も開催することができませんでした。

2021年度は、感染症対策を行い前年度に開催ができるなった講座(「はじめてのバルーンアート」)を実施することができました。その際、参加してくださった方から「また協力をしたい」と温かい言葉を掛けていただき、改めてたくさんの力をお借りしていましたことを感じました。

2022年度は、ボランティア活動の再開や、講座等を実施できるように、感染症対策や実施方法を検討し、ボランティアの皆さんと協力をして、たちの事業をより良くしていくようにしたいと思います。

総合受付(社会福祉士) 濑智 滉子



ボランティアの力

たっち

たつちでは、えほんの読み聞かせや製作物のお手伝い、子ども達の見守りをしてくださるボランティアの皆さんに、常に力を借りていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の猛威により、ボランティア活動をしていたことが難しい状況になってしまい、2020年度はボランティアの方を対象とした講座も開催することができませんでした。



ニュース

新しい自転車

今では街中でも珍しくなくなつた電動自転車。家事と育児を担つてゐるお母さんにとつて、日々のお子さんの送迎やお買ひ物は大変です。また、コロナウイルスの影響で自転車需要も高まつていています。そんな中、しらとりに入所してゐる方のために電動自転車をご寄贈いただきました。もちろん子ども用椅子付きです！さつそく試乗をしてみたところ、乗り心地も良く、近隣にある坂道もスイスイ登れます。しらとりお母さん方の救世主となつています。



ニュース
ミーティング

エレベーターを新調しました！

あさひ苑は、1993年に開設し今
年で28年となります。長い間使用して
いたエレベーターを、新しく交換する
ことになりました。

あさひ苑にはエレベーターが1台のみ
のため、1ヶ月半程の工事期間中はご
利用者が階を移動する際には階段昇降
機を設置して対応しました。

慣れない昇降機での移動はエレベータ
ーを使うのとは違い時間も掛かり、皆
様にご不便をおかけしましたが、事故
などが起きることなく無事に工事を終
了することができました。

ボランティアの御協力——
ありがとうございます
(敬称を省略させていただきます)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため
2020年2月よりボランティア活動のほとんどを中止いただいています。
その中でご協力いただきました。

大間洋子 川上詩乃 北村よしこ
児島豊 高倉祥子 村井福子
(2021年12月～2022年2月)

・御寄贈・御寄付ありがとうございます

(掲載を可とされた方のみのお名前です。敬称を省略させていただきます)

足立介護タクシー松寿丸山岡修治 アメリカンスクールインジャパン 株式会社
社一蘭 上野恒章 大沢良三 岡小二 岡田敏子 株式会社カーブスジャパン
キャップジェミニ株式会社 一般社団法人cornerstoneI-SHI-ZU-E
小島恵美子 小林謙二 小林久恵 浄土宗八王子青年会 特定非営利活動法人ソシオキュアアンドケアサポート 多磨町会 ドミノ・ピザ中河原店
日産化学株式会社 一般社団法人日本出版クラブ 公益財団法人日本農林漁業振興会 桢本悦子 公益社団法人報知社会福祉事業団 ムーンバット
株式会社 本橋達朗 若杉会 (2021年12月～2022年2月)

介護に関するご相談は無料ダイヤルで！

● 泉苑 老後支援 24 時間
 0120-6540-24

●あさひ苑 福祉にっこり 24 時間
 0120-2942-24

プロ野球の開幕や選抜高校野球と球春を謳歌したいと思ひます。
(あさひ苑 横井拓磨) (緑苑 村上悟)

前に：です。
（事務局 西郷加代子）
「オープントラスのcaffエで
桜並木を眺めながら読書」の夢
を今年こそ実現したいです
（事務局 青木志乃）

コロナ禍で2年間中止して
いましたが、今年はそのチャレ
ンジを実行することにします。

（編集長 上野廣美）

春のワタシは、今年も花粉症が発症しないことを願いながら過ごします。
(たつち 恩智温子)

「オープンテラスのカフェで、春はお花見よりお団子を食べたくなります。毎年、健康診断を前にします。」
（事務局 西郷加代子）

コロナが落ち着いていたら旅行に行きたいですね。（かんだ連雀）

（岩本 松本幸二郎）

体調を整え病気をすることなく1年を過ごしていきたいです。（伊藤裕太）

なんでかウキウキが止まりません。（泉苑 堀内賢治）

子どもたちとの散歩で花や生き物など、たくさん春を見つけたいと思っています。

新しい目標に向かって、日々努力を続けていきます

春のワタシは…